

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月1日～ 至 令和5年3月31日

運 営 事 業

(1) 第一種社会福祉事業

- ア 特別養護老人ホームかりん (定員98名)
- イ 特別養護老人ホームかりん・町田 (定員77名)

(2) 第二種社会福祉事業

- ア 老人短期入所施設 かりん (定員12名)
- イ 老人短期入所施設 かりん・町田 (定員8名)
- ウ 老人デイサービスセンターかりん (定員35名)
- エ 認知症対応型老人共同生活援助事業所 いこいの郷 花梨・成瀬 (定員18名)
- オ 認知症対応型老人共同生活援助事業所 いこいの郷 花梨・赤羽根 (定員18名)
- カ 認知症対応型老人共同生活援助事業所 いこいの郷 花梨・原当麻 (定員18名)
- キ 認知症対応型老人共同生活援助事業所 いこいの郷 花梨・南大谷 (定員18名)
- ク 保育所 湘南まるめろ保育園
- ケ 保育所 湘南わもっか保育園

(3) 公益事業

- ア 居宅介護支援センター かりん
- イ 居宅介護支援センター かりん・町田
- ウ 地域包括支援センター 藤沢東部いきいきサポートセンター
- エ 企業主導型保育園 まるめろっじ
- オ 介護職員初任者研修企画・実施

令和4年度年間事業経過について

月毎の主な経過>

- 4月・人事発令(1日)、法人内で、3名に課長職辞令交付
 - ・令和3年度中の福祉資格取得者
 - 介護福祉士4名合格、社会福祉士0名、介護支援専門員1名合格
 - ・新採用常勤職員、藤沢2名、町田3名 保育園5名(新卒1名)
 - ・湘南まるめろ保育園、湘南わもっか保育園入園式(1日)
 - ・新型コロナウイルス感染「かりん町田」3月30日より発生、職員・利用者13名感染
 - ・地域貢献事業キッズルーム」14名で令和4年度スタート(1日)

- ・ 菖蒲湯週間30日から5月上旬実施、法人リーダー会議開催（11日）
- ・ 法人職員永年勤続者表彰及び感謝状贈呈式を行う（26日）
- 5月
 - ・ 人事発令（2日）特養かりん・町田に特定技能生1名採用
 - ・ 湘南地区採用職員研修（12日）、「にっこりかりん子ども食堂」実施（22日）
 - ・ 令和3年度収支決算に関する監事監査実施（25日）、
 - ・ 令和4年度法人第1回理事会（28日）（事業報告、決算報告等）
 - ・ かりん・町田施設長朝妻卓也職員退職（31日）、6月以降理事長が施設長兼任とする
- 6月
 - ・ 人事発令（1日）、法人リーダー会議開催（13日）
 - ・ 湘南まるめろ保育園、湘南わもっか保育園運動会開催（18日）
 - ・ 令和4年度法人定時評議員会開催（12日）（事業報告、決算報告等）
- 7月
 - ・ 人事発令（1日）、夏期賞与支給（12日）、
 - ・ かりん・町田及び周辺事業所採用者研修（21日）
 - ・ 「にっこりかりん子ども食堂」実施（7月22日）
 - ・ 災害時安否確認システム実施訓練（28日）
- 8月
 - ・ 人事発令、（1日）かりん・町田施設長小島秀樹職員（15日火）採用
 - ・ 「にっこりかりん子ども食堂」実施（26日）
- 9月
 - ・ 人事発令、（1日）
 - ・ 各介護事業所で敬老会を施設内部限定で実施
 - ・ 認可保育園2園指導監査（27日） 「にっこりかりんこども食堂」実施（30日）
- 10月
 - ・ 人事発令（1日）藤沢特養かりん介護課長辞令交付、EPA9期生2名就業
 - ・ 特養かりん・町田に特定技能生2名採用
 - ・ 町田周辺採用職員研修（6日）、藤沢リーダー会議宿泊研修開催（13～14日）
 - ・ 「にっこりかりんこども食堂」実施（21日）、湘南地区採用職員研修（27日）
- 11月
 - ・ 人事発令（1日）、特養かりん指導監査（2日）法人リーダー会議開催（14日）
 - ・ 令和4年度法人第2回理事会（16日）、かりん・町田及び周辺事業所採用者研修（17日）
 - ・ 「にっこりかりん子ども食堂」実施（25日）、特養かりん文化祭（30日）
- 12月
 - ・ 法人第2回評議員会（4日）
 - ・ 湘南わもっか保育園発表会（3日）、湘南まるめろ保育園発表会（10日）
 - ・ 冬期賞与支給日（16日）、「にっこりかりん子ども食堂」実施（23日）
- 1月
 - ・ 企業主導型保育園まるめろっじ立ち入り調査（14日）
 - ・ 「にっこりかりん子ども食堂」実施（20日）
 - ・ 令和4年度法人第3回理事会（21日）、令和4年度法人第3回評議員会（29日）
- 2月
 - ・ 節分イベント実施（2日）
 - ・ 東部総合職業技術校協会総会永寿会職員表彰（8日）
 - ・ 西部総合職業技術校協会総会永寿会職員表彰（24日）
- 3月
 - ・ 雛祭りイベント（3日） ・ 法人リーダー会議開催（13日）
 - ・ 保育園2園卒園式（18日）、法人令和4年度第4回理事会（18日）、令和4年度法人第4回評議員会（26日）

・「にっこりかりん子ども食堂」実施（27日）

<令和4年度を総括するための社会背景>

～世界の中では～

- ・今、世界の懸案事項はウクライナでの大規模な戦闘行為で、令和4年2月に始まった、ウクライナへのロシアの軍事侵攻で世界の緊張が高まり、政治や経済、貿易等に大きな衝撃を与えている。
- ・令和2年2月から拡散した新型コロナウイルスによる社会的影響は生命や医療、経済へと想定できないほどの波紋をもたらし、社会生活も大きく変え、またその影響は世界に及んだ。

～日本の全国的状況は～

- ・日本の産業構造は、依然として大企業と投資集団や金融資産を有する階層に依拠しつつあり、また、コロナ感染対策による社会交流の中断や、イベントや大規模集合施設での会合等が制約され、貿易や国際観光も大変厳しい経過を辿った。
- ・また、少子高齢化は一段と進む中で、児童生徒数の減少の一途であり、子供を育て易い社会環境の整備が急務とされ、政府もこども家庭庁を内閣府内に設けるようになった。
- ・就業年齢層の減少化の中、外国人材の各産業への流入が自然の流れになり、増大している。

～法人を取り巻く地域環境～

- ・人材難の中、少しずつ補強や研修を充実させて行く中、成長する法人の将来に向けて、ベトナムからのEPA人材の受け入れを準備し、令和4年度も2名の人材を確保することができた。また、特定技能生もかりん町田やGHに受入れするようになった。今後も多様な人材を受け入れていく必要がある。
- ・働き方改革の提唱の中で、労働環境を向上させることも求められてきたが、上述した関係で錯綜の事態となっているが、労働環境の諸規則を改訂し、働きやすい環境整備に努めている。
- ・法人を巡る環境は非常に厳しく、克服すべき課題も抱えたが特に人材の確保では、若い層や能力のある就業者が少なく、困難な状況の中にある。そのため高齢の人材も活用していく方向性は一段と進むと思われる。
- ・新型コロナウイルス感染は、変異株等から感染力を増して、事業運営上、最も留意する環境を辿った。実際に職員や利用者に陽性患者や濃厚接触者を幾つかの事業所で抱え、危機感を持って事業運営に取り組んだ。

<全体的総括内容について>

- ・法人全体としては、令和4年度では、10拠点で15事業を運営、展開する規模となり、ユニット型特養やGH事業、保育園、地域包括、企業主導型保育園等との相互連携や協力の中で、新たな発展・飛躍を期して、各施設全体で、理念に基づき、堅実で、効率的な人事配置と今後の展望も広げるために検討や実行に向け努力をしてきた。
- ・職員の力と、関係者の協力、支援の輪を背景に、「あたたか、安心、いきいき」の理念のもと、コロナ禍が収まりつつある中、感染防除に努め、コロナ禍前のレベルまでには至らなかったが、充実した日常生活の提供と、各事業間の連携で相乗効果を生み出し、法人の未来に向け堅実な道を作れた。

1 10拠点で事業を展開する中で、法人組織の点検と構築を行いながら、高齢者が安心して暮らせ、

乳幼児が安心して豊かに育てられる事業目的を追求し、事業展開を図った。人事面で困難な所もあったが「GH南大谷」や「GH原当麻」は次第に安定してきた。

保育園事業では各園ほぼ定員に達し、特に「湘南わもっか保育園」では園庭全体の特色を活かし、掘り抜き井戸や、アスレチック遊具を配置し、またピザ窯やかまどを有効利用して保育内容の充実を図った。今後も3つの園で有効活用を進める。

更に企業主導型保育園「まるめろっじ」も地域関係者の需要に答え、利用促進や法人職員確保のため、入職する職員の利便性に貢献している。

- 2 各事業では収益向上に向け、加算取得や営業活動を強化し、人事処遇や組織管理等ソフト面では、人事評価制度を充実させ、運用を着実に推進し、研修体制の充実強化も進めた。
- 3 「新成長産業」といわれている介護事業や保育分野へは、様々な企業が子会社を設立し進出しており、社会福祉法人としても確りと運営するため、厳しい現状にも対応可能となるようハードとソフト両面から検証して、ホームページの充実や関係先との連携で打開策を進めた。
- 4 特に介護では、令和4年度も介護人材の雇用に苦心する展開になり、研修や面接等できめ細かい配慮を進め、克服の道を一定程度築くことができた。法人の初任者研修の利用を勧誘し、講座の講師に職員がなることで意欲向上に貢献した。また、施設内の研修発表会や外部研修への参加を通じて技能・技術の意欲喚起に努めたが、コロナのため参加者の多い研修は実施できなかった。
- 5 事業拡大に伴い、各事業所への巡回等を通じて、財務処理、経理処理等の整備、確立に取り組んだ。法人本部機能を堅実なものとし、各事業所間の連携と協調の体制作りに努めた。また、GHの医療支援体制の課題解決に取り組み、看護師の巡回訪問で安心して暮らせる生活を支えた。
- 6 高度情報社会での情報伝達手段として、IT機能を使いこなすようICT化の推進として介護記録のネットワーク化、ソフト更新を進め、特養やグループホームの運営や記録・連絡の充実を図った。また、保育園では情報把握や記録保存に活かした。
- 7 保育園事業は開園から8年間が経過し、0歳児から利用した園児も含めて、本年度は2園で38名の卒園児が誕生した。周辺環境を活かし特養、グループホームとの交流はコロナ禍で最近の三年間は出来なかったが、自然とのふれあいや畑での野菜栽培等行い、感覚豊かな子供達として成長を進められた。今後も老保交流等でのプラス・プラスの関係を模索する。
- 8 「湘南わもっか保育園」隣接場所での学童保育支援事業「かりんキッズルーム」は利用する児童が次第に増加し、就労保護者の期待に応じて順調に推移した。
- 9 藤沢の「特養かりん」は建設から19年が経過し、ガス冷暖房や電話交換装置等、施設構造物や設備・備品類で耐用年数が限界となり、年度で実施した防音工事と並行して大規模修繕と機器交換入替え等を進めた。施設使用しながらの工事のため課題整理も大変であった。
- 10 法人の運営する地域包括支援センター事業や、短期入所生活介護事業、通所介護事業等の重層的運営の特性や連携を活かして、緊急対応等についてセーフティーネットの役割を果たした。
- 11 法人職員が約330名近くとなり、各事業所内での退職防止と働きやすい職場環境のため、親睦やコミュニケーションの円滑化を図る必要があり、法人の福利厚生制度の充実と研修支援体制の強化により、組織の纏まりに供した。ただ、コロナ禍で直接の交流や親睦には至っていない。